

華やかな美術館の表側と異なり、裏方にはちょっと変わった世界があります。学芸員(curator)はこの表と裏の両方を行き来する研究者ですが、この美術館には、ほとんどこの裏方ばかりにいる保存担当学芸員(conservation staff)という職種のメンバーもいます。この裏方より、このあまり知られていない裏方の世界を紹介させて頂こうと思います。

美術館の裏方は防犯上お見せできない部分もあり、この裏方通信シリーズには意図的にぼけさせた写真を使わざるえない場合も出てくると思います。そこらへんはどうかお許し下さい。

現在、この主に保存業務を中心に頑張っているメンバーは3人います。今日はアートドキュメンテーションという、これまた裏方チームのアシスタントさん1名にも手伝ってもらい、4人で屋外彫刻の洗浄です。この立体作品がセンターのどこにあるか、ご存知ですか？

まず床面に堆積した泥を集めます。かなりこびりつきが激しいのでデッキブラシでこそげ落とします。



いよいよ作品にかかりました。まず十分に水で流します。次の段階では洗剤を使って表面を洗うのですが、この時、泥が残っているとかわってその泥が表面を傷つけてしまうので、最初の水洗いは丹念に行います。ここらへんは車の洗浄と同じですね。



次に中性洗剤で洗います。表面のコーティングがかなり弱っているので、優しく、赤ちゃんの体を洗うように・・・、「こする」というより「なぜる」という感覚で、洗ってゆきます。



そしてまた水で洗剤を流し、流した洗浄液を排水溝に集めながら、床面も磨いて終わりです。この作品は大きいので丸一日の仕事となりました。



翌日には全員(?)ふくらはぎに激しい筋肉痛が起こりました(注:若干1名の筋肉痛は1日遅れましたあ!!)。

ツルツルの曲面から滑り落ちないように、かなり筋肉を緊張させていたのですね。

(N.N.)